

授業科目 検査と治療法概説Ⅱ（1） 輸血療法	区分・教育内容 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 伊藤 文恵 （中通総合病院）	開講時期 中期	単位 1 単位	時間数 30 時間 （輸血療法 4 時間）
授業の目的 化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。 授業の目標 輸血療法について理解する。			
授業概要 輸血は移植の一種であり、輸血治療を行うには知識と判断力が要求される。特に患者に最も近いところで臨床輸血に関与する看護師には輸血に関する知識と看護能力が求められている。安全な輸血療法を実施するための基礎知識を身につけていただきたい。 授業計画(進め方) 1 回目 ・ 輸血医療の歴史を紹介し、善意で得られた血液が医療機関に供給され、患者に投与されるまでの過程を説明する。 ・ 輸血に関わる法制度と血液製剤の種類と特徴について説明する。 2 回目 ・ 輸血検査、輸血の実際と看護、輸血の副作用とその対策、自己血輸血についての要点などを説明する。			
テキスト ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 検査と治療法概説Ⅱ 100 点満点中の 10 点			

授業科目 検査と治療法概説Ⅱ (2) 手術療法	区分・教育内容 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 進藤 吉明 (中通総合病院)	開講時期 中期	単位 1 単位	時間数 30 時間 (手術療法 12 時間)
授業の目的 化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。 授業の目標 手術療法について理解する。			
授業概要 手術療法での大切なことや流れを理解する。全身管理を行う上で大切なこと（輸液量、ドレーン、尿量など）を理解する。 授業計画(進め方) 1 回目 手術療法の進歩 2 回目 創傷治療の基礎 麻酔とは？ 3 回目 局所麻酔の特徴 4 回目 全身麻酔の特徴 5 回目 生体反応とモニタリング 6 回目 周手術期合併症と疼痛管理			
テキスト ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 質問形式のレポート提出 (任意) も参考とする 検査と治療法概説Ⅱ100点満点中の40点			

授業科目 検査と治療法概説Ⅱ (3) 化学療法	区分・教育内容		
	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 進藤 吉明 (中通総合病院)	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	30 時間 (化学療法 8 時間)
授業の目的 化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。			
授業の目標 1. 化学療法について理解する。 2. 化学療法における看護師の役割を理解する。			
授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ がん治療における化学療法の位置づけの理解 ・ がん化学療法の基礎・有害事象の理解 ・ がん化学療法における看護師の役割 ・ がん化学療法の実際 			
授業計画(進め方) 1・2 回目 がん化学療法に関する基礎知識講座 3 回目 がん化学療法各論 4 回目 がん化学療法の計画立案、ロールプレイ			
テキスト 講師が準備 (プリント、中通総合病院作成患者向けパンフレット)			
参考書・指定図書 薬がみえる vol.3 メディックメディア 徹底ガイド がん化学療法とケアQ&A (ナーシングケアQ&A25 NCQA) (総合医学社) 新臨床腫瘍学 (日本臨床腫瘍学会編集; 南江堂) がん情報サイト (http://cancerinfo.tri-kobe.org) 国立がんセンター (http://ganjoho.ncc.go.jp/pro/index.html) PDQ 日本語版 (http://mext-cancerinfo.tri-kobe.org/database/pdq/index.html)			
評価の方法 検査と治療法概説Ⅱ100点満点中の30点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義終了後のミニテスト ・ 最終講義時のグループ学習 ・ 学習到達度確認試験 (選択式・記述式) 			

授業科目 検査と治療法概説Ⅱ (4) 医療機器	区分・教育内容		
	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進		
授業担当者 高橋ひとみ (中通総合病院)	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	30 時間 (医療機器 6 時間)
授業の目的 臨床検査・放射線検査・医療機器についての基礎的知識を習得する。			
授業の目標 医療機器の原理と使用目的、使用上の留意点、特徴的な医療機器について理解する。			
授業概要 医療機器はおもに、生体計測や生体機能の代行を行うことを目的に使用される。したがって医療機器を適切に取り扱うためには、特に臨床生理学の基礎的知識が求められる。生理学の理解度に応じて、知識を補完しながら、医療機器の基本的原理・機能がわかり易く習得されるよう授業を進めていく。			
授業計画(進め方) テキストに沿って進めて行く。 医療機器の使用目的と測定原理について、測定用医療機器と治療用医療機器において解説する。			
1 回目 ME 機器とは ME 機器が関連した医療事故事例 ME 機器を使用するための基礎知識 医療用ガスについて			
2 回目 測定用医療機器 ①心電図モニター ②心電計 ③血圧計 ④パルスオキシメータ ⑤電子体温計			
3 回目 治療用ME 機器 ①人工呼吸器 ②除細動器 ③ペースメーカー ④輸液ポンプ・シリンジポンプ ⑤酸素流量計			
テキスト 看護技術プラクティス 第4版 学研			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 検査と治療法概説Ⅱ100点満点中の20点			